

三矢君の批評に答へて「しらす」「うしはく」 二語の異同輕重に及ぶ

加 藤 玄 智

序でありますから一寸申します。三矢君のお話を承りまして大變に參考になりましたが、其中に天照大御神に「うしはく」と云ふ言葉があると云ふやうなことを私の申しましたのは、少しくどうかと云ふ御話でありましたが、私も天照大御神に直に「うしはく」と云ふ言葉が使つてあると云ふことは一向申さぬのでありまして、何處其處を「うしはく」諸の大神達と云ふことが萬葉集にありますので、其「諸の大神達」と云ふことを極く廣い意味に解釋して——獨り住江の大神のみではなく、大和の大國主神の名前を擧げて、其他諸の大神達と云ふことがありますから、其「諸の大神達」と云ふことを若し廣い意味に解釋しますと、天照大御神も畢竟其中に含まれはしないか。——無論間接ではありませんが、すると「うしはく」と云ふ言葉が天照大御神にも使はれた譯になるかと云ふことを申したのでありまして、直接に天照大御神に對して「うしはく」と云ふ言葉が使つてあつたと云つた譯ではありませんぬ。極めて間接な使ひ方でありませぬ。諸の大神達と云ふことを總ての神と云ふことに解釋すると、其中に天照大御神も這入るので

ありますから、さうすると天照大御神は皇祖としては「しらす」であるし、神様としては「うしはく」と云ふことになる譯になると斯う云ふ結論を申したのであります。

それから天照大御神の荒魂として知られて居る廣田の神社でありますが、之れは神の荒魂であつて即ち神様でありますから、此廣田の神社に就て「うしはく」と云ふ言葉を何處か使つた所はなからうかと思ひまして、少く文獻をしらべたのでありますけれども、私にはどうも其實例が見當らぬ、若し三矢君、河野君あたりの御調べになつた所で、廣田の神社に就て「うしはく」と云ふ言葉の用例があるかどうか、御承知ならば承りたいと思ひます。若し有れば大變私の假定説には都合が好くなる、無ければ已むを得ぬのであります、私が調べた範圍では無いのであります。さう云ふ用例の御研究の方に承りたいと思ひます。

それから「しらす」と「うしはく」の違ひと云ふことでありますが、三矢君の御話に依ると故文部大臣井上毅氏の考へられた程の違でもないやうに思ひます。詰り西洋の言葉で云へば、所謂シエーズ、オヴ、ミニングと云ふ言葉を使つて西洋の文法家が申して居るやうに、無論二つの言葉がある以上は違ひがあるに極つて居る。即ち例へば英語にしても、同じ「大きい」と云ふ字に「ラージ」と云ふ字と「ビッグ」と有るがこの二つは矢張り違ふのであります、けれどもそれならざれだけ違ふかと云はれると甚だ説明に困る位似てをる、此二つは或る場合には違ふ如く使ふこともあり、殆ど同じ位の意味に使ふこともあるのであります。併し「ビッグ」と「ラージ」と字が二つある以上はシエーズ、オヴ、ミニングもその間に存し

て居ると言はなければならぬのであります。三矢君の御話の「しらす」と「うしはく」との違いは、寧ろ其程度の違ひではないかと思ひます。井上穀氏の梧陰存稿に依ると、雲泥水火の相違がある。例を取つて云へば、私の着て居るこの白いチョッキと黒い靴とは違つて居る、此色には雲泥水火の違があると云つて宜しい。然し又私は今日深ゴムの靴を穿いて來て居りますが、是と今こゝに居らるゝ軍人のお方の穿いて居られる長靴とは、どうも白いチョッキと黒い靴の違い程には違つて居らぬと思ひます。是ならば一方は長い、一方は短かいけれども、履物であつて同じく靴である。井上穀氏の「しらす」と「うしはく」の言葉の違いは雲泥水火の違いがあると云ふのでありますから、今の例を取つて云へば、白いチョッキと黒い靴の違いのやうに考へられる。けれども三矢君のお話を伺ふと私の了解した所では、それ程でもないやうに思ひます。丁度長靴と私の穿いて居る深ゴムの靴位の違いに、「しらす」と「うしはく」を御覽になつて居るやうに私は了解したのであります。尚ほ私の拜聴の仕方が悪ければ御訂正を願ひたいと思ひます。「しらす」と「うしはく」の差は畢竟さう云ふ程度ではあるまいかと思ひます。即ちシエーズ、オヴ、ミーングが違ふので「ラージ」と「ビッグ」は違ふけれども、或る所では殆同に使はれる時も皆無ではな。それから尚ほ西洋の言葉で例を取つて考へて見ますれば、「又」と云ふ言葉でも、英語で云ふならば「ツ」と「オルター」とある。是は殆ど違ひはない。尤も日本の英文法家で有名な齋藤秀三郎君は多少違ひの點を擧げて居ります。けれども事實いつでもそれ程違つて使はれては居らぬ。併し又其れと同時に

時として違ふ所もある。違ひのあると云ふ方面から云へば、成程字が違ふのですから、無論違ひはありませうけれども、其違ひたるや極めて少ないものである。一方の代りに他方を使つても宜いやうな事がまゝあります、けれども習慣上どうしても「ツ」ではいかぬ、「オルソ」でなければならぬと云ふことがある。例へば「ナツト、オーソリ、バツト、オルソ」とは云ふがそれを「ナツト、オーソリ、バツト、ツ」とは言はれない。斯く「ナツト、オーソリ、バツト、オルソ」と云ふ所からして、其處に「ツ」と「オルソ」との間に違ひがあると云ふことを見て、何處にも之を推して行くと云ふことは出来ないのみならず、此間には雲泥水火の相違が有るとはどうしても云へないであらうと思ひます。「しらす」と「うしはく」と云ふ言葉に於ても、古事記に於ては大國主命と天孫との所だけに對照して使つてあるのみですけれども、日本書紀には天孫にも大國主命にも兩方とも「しらす」となつて居るのでありまして、古事記程に對照して居りませぬ、こゝは考に入れべきことではないかと思ひます。

それで「ナツト、オーソリ、バツト、オルソ」であつて、「ナツト、オーソリ、バツト、ツ」と言はぬと云ふ點から「ツ」と「オルソ」の區別はあるけれども、又他の方面では混合して使つても一向意味の上にて變りはないと云ふ場合があるやうに思ひます。「しらす」と「うしはく」とは矢張りさう云つたやうな所がありはせぬか、斯う云ふ感じが起る。丁度深ゴムの靴と長靴との、違ひのやうなもので、あつて、無論違ふには相違ないけれども、足に履く物と云ふことに於ては短靴長靴同一である。是は白いチヨ

ツキと黒い靴の違ひと云ふ程の違ひではないけれども、井上毅氏の解釋に依れば、白チヨツキと黒い靴との違ひがあると解されて居るやうに思ひます。私は其點に於て、「うしはく」と「しらす」はさうは違つて居らぬのではないかと云ふ疑を持つて居ります。寧ろ餘りに違ひが大きく今まで言はれて、さうして其違ひを甚しく認めたとに於て、國民道德と云ふやうなものを其上に打立てやうと云ふ傾向があるけれども、さう云ふやうに違ひが餘り大きくないのに、それ程の違ひがあるやうに認めて、其上に國民道德の大層高樓を築いても、基礎が不十分であるから忽ち土崩瓦壞の虞があると思ふ。それで私共は此兩語の根本的研究が必要だと思ひまして、此研究を本會でやつた次第であります。

それから先程榮華物語の引證文などもありましたやうであります。さうして三矢君は詳しく文法の智識を以て御説明になつて、大に啓發された所もあるのであります、併ながら素人考かも知れませぬが、榮華物語には驚くべき程、「しらす」の語が臣下に使つてある。「知」と云ふ字を臣下の場合にも使つてあることで五月の會には此點から私は「しらす」と「うしはく」の區別のつかぬことを力説しましたが尙考へますのには私の議論には不利益になるのでありますけれども、研究でありますから申上げて御參考に供し、御考も承りたいのであります。榮華物語は詰り藤原氏の非常な勢力のある事を書いたものでありますから、道長にしろ、藤原氏の権力者に如何に帝王と同じ言葉が使つてありましても、それ程重く考へられないかも知れませぬ。と云ふのは、あれを書く人は藤原氏を揚げて書かうとするのでありますから、成

程帝王に用ふ可き言葉を以て藤原氏の有力者を形容すると云ふことは當り前であります。でありますから、あれに、天皇に「しらす」と云ふ言葉がある、それと同じやうな言葉を澤山假に使つて居るとしましても、或は私の議論を助ける材料にはならぬかと思つて居ります。其證據には斯う云ふこともあります、私共宗教の比較研究から云へば、丁度日本の天皇の御位地は、或る意味に於ては猶太の救主即ち「メシヤ」の位地に當つて居られる。印度の方に比較すると丁度轉輪聖王の一番偉い金輪聖王の位地を御占めになつて居るのであります。日本ではそう云ふ事を早くから知つたものと見えます。三代實録を見ても、金轉聖主と云ふやうな言葉で天皇を呼び奉つて居ると云ふ例も擧げられる。所が榮華物語では道長を轉輪聖王の現れたのではないかと云ふやうに形容して居る、かう云ふ例が榮華物語には出て居るのであります。さう云ふ風に實際天皇でなければ日本では尊稱語としても使つては具合が悪いやうな轉輪聖王の言葉を、道長にも勝手に使ふのでありますから、假に「しらす」と云ふ語が幾ら榮華物語に出て居ても、元々榮華物語を書いた人の動機が無暗に藤原氏を揚げやうと云ふ考でやつたのでありますから、あの本に「しらす」の語が臣下の場合に使つてあつても、それを直に「しらす」と「うしはく」の區別を没する證據とするに足らぬかとも思つて居ります、さうすれば五月の例會に私が述べた榮華物語からの材料は全部取り去つても宜しう御座います。

併し他方から考へれば、さう云ふ風に「しらす」と云ふ言葉が臣下の場合にも澤山出ると云ふのは斯う

も考へられるのであります。初は「うしはく」と「しらす」との區別などは餘りに重く見て居らぬ。先程の例で申しますと、丁度「ツ」と「オルツ」位の違ひではなからうか。さう云ふ風な考も起るのであります。要するに是は雲泥水火の相違と見るべきかどうか、其處は疑問ではなからうかと思ひます。三矢君の御話を承つて中々啓發された所もありますが、一寸其間に考へ付きました所を御参考に申上げたいのであります。尙又安藤君に限らず他のお方で、夫等の御意見のあります方は、御申述べあらんことを希望致します。

法學博士穗積陳重男よりの來信

拜啓倍御清康、奉賀候陳ば「しらす」「うしはく」兩語の意義に關する御研究を載せたる冊子の御惠贈を辱しく御芳情感謝の至に耐へず直ちに潛心拜讀仕候所研究法の眞摯なる學者的態度なるを御論斷の慎重なるには只管敬服仕候老生も御結論の方至極適當に有之べきかと思考仕候若し兩語の間に差別ありませば而して若し從來語學者の説く如く「うし」に「主」の義ありませば或は兩者の間に體用の別ありとも申得べきかと存候得共素より門外漢にて疑を容るゝ資格さへも覺束無き次第に御座候高説を拜讀して蒙る啓き益を得たることを尠からず厚く御禮申上候

拜具

陳重

加藤博士研北